

# 連弾や2台ピアノから得られる効果的なピアノの上達

—ソロとデュオ双方の取り組みで見える相乗効果—

中島 美保

The effective growth of Piano through Duo/Four Handed

—The synergy through both the training of Solo and Duo—

Miho Nakashima

## Abstract

Performing on a piano can give us satisfaction and joy when we can play well. But the practice that is needed to reach that point consists mainly of continuous, steady tasks which also require a lot of time and patience. I have experienced many cases in which students have gained resistance or hatred toward playing the piano before they have overcome those tasks. But even during those periods, I have had many students who showed progress after performing a duo/four-handed performance at an annual piano recital once a year. When students perform a dual/four-hand performance, often they will have improved their skills by adding synergy to their general practice.

While a classical solo piano piece requires slow and steady effort in practice, a duo/four-handed piece is often less difficult. Also, it requires less burden for each person to practice. But because it will be performed by two people, those melodies can turn into a significant piece, and they are even easy, students can experience a rich harmony of piano music, as well as the joy of performing with one another. As a result, such a process can lead students to feel that playing the piano is fun and encourage them to continue playing the piano. It will not only motivate them to practice more in general, but also the solo piece that they are practicing will also be favorably affected by it. And it will effectively improve their overall musical skills.

Based on those experiences, and by looking back on my past 34 years of teaching piano, I will talk about the importance of duo/four-handed performances.

**Keywords:** Duo/Four Handed, synergy, satisfaction, recital

## 要約

ピアノを演奏するにあたり、弾けるようになると楽しく満足感を得られるが、スムーズに弾けるようになるまでの「練習」は、地道な作業で、かなりの時間と忍耐が必要となる。そして、その地道な「練習」を乗り越える前に、ピアノに対する抵抗感や嫌悪感を抱くケースを数多く経験してきた。そうした中、年に1度開催する「ピアノ発表会」で、ソロ曲と連弾もしくは2台ピアノ曲の両方を演奏披露する事で相乗効果が生まれ、上達に結び付いていると思われる生徒を今まで数多く指導し育ててきた。

地道な練習が多いクラシック曲を一人で演奏するソロ曲に比べ、連弾や2台ピアノは、一人あたりの難易度、練習量の負担が少ないにも関わらず、二人で一緒に弾く事で難易度が高くスケールの大きな曲へ変化し、ハーモニーの豊かさや二人で一緒に作り上げる喜びと満足感を得られる。その結果“ピアノを弾くことが楽しい” “ピアノがまた弾きたい”という意識を持ち、練習のモチベーションが上がり、同時に練習をしているソロ曲にも影響を与え、効果的にピアノの上達に結びつく。

その経験を基に、ピアノを指導してきた34年間を振り返りながら「連弾」「2台ピアノ」を教材に取り入れることの重要性を論じる。

### I. はじめに

筆者は、近畿大学九州短期大学の通信保育科教員、また同短大通学生保育科非常勤講師として、ピアノ個人指導を担当する傍ら、自宅で幼児から大人までの個人ピアノの指導をしている。レッスンに来ている生徒の年齢、進度、ピアノに対する目標、練習時間、練習内容、家庭環境は様々で、コンクール等を受け、結果を出したい生徒もいれば、音符が読めて弾きたい曲が一応弾ければよい、或いは自宅で練習できないが、レッスンの時だけ楽しくピアノが弾ければ良い、という生徒もいる。本当に様々な生徒がいる中、筆者が34年間ピアノ講師をする上で拘り行ってきた「門下生発表会」。年に一度行い（引越しや、生徒数が少なく出来なかった年がある）生徒の一年間の成長の披露の場とし、次回行う門下生発表会で30回を迎える。その発表会で必ず1部は、ピアノソロ演奏を一人ずつしてもらい、2部では連弾、または2台ピアノ演奏を披露してもらっている。ピアノソロ曲は、その生徒の能力と現状の実力より少し上のレベル曲を選ぶが、連弾や2台ピアノ曲は、アニメ、ディズニー、Jポップ、映画音楽等、皆が知っている、聴いたことのある曲、または自分が弾きたい曲を選曲し、その相手は生徒同士、親子、兄弟、指導者等、好きな相手と組むことにしている。

ピアノソロ曲は、難易度の高いクラシック曲を一人で暗譜演奏するということもあり、演奏者はかなりの練習量を必要とし、1曲を仕上げるには、地道に譜読みをし、5本の指を自由に動かせるテクニックをつけ、曲に合ったリズム感、表現力を習得しなければ上手くは弾け

ない上、本番では緊張と不安に駆られる。地味な練習ばかりでなかなか上達せずピアノが嫌いになり、中にはピアノ自体を辞める生徒も見えてきた。しかし連弾や2台ピアノ演奏では、まだ片手でド・レ・ミしか弾けない生徒でも、連弾の相手が広い音域で素敵な和音進行の伴奏を付けて一緒に弾くことで、その生徒が実際に片手で弾いている中で聴こえてくる音楽が、とても素敵に感じられ、あたかも自分が全部弾いているような気になり、満ち溢れる想像力で更に曲が生き生きとなり、一人で演奏する時には見られなかった“ピアノを演奏する楽しさ”、“自信”、“達成感”が芽生え、“またピアノが弾きたい”という気持ちにさせてくれる。ピアノ=(イコール)“難しい”、“練習が大変”、“指が思う様に動かない”、“暗譜が苦手”、“一人で孤独”、の負のイメージを一気に変えてしまう効果がある。発表会本番では、どのペアも肩の力が抜け、大変楽しんで余裕ある演奏をしており、聴衆者側も知っている曲が聴けるので、一緒に楽しんでいる様子が伝わり、会場が和やかな雰囲気になっている。

ピアノは、上手く弾けるようになると楽しく、“また弾きたい” “次はこんな曲にチャレンジしたい” という気持ちになる。また練習して弾けるようになった曲を、「発表会」という場で、家族や友人に聴いてもらい褒められることで、自信が付き更に練習意欲が増し、もっと上達したい気持ちが湧いてくる。そこでレッスンや発表会等で「連弾」や「2台ピアノ」を取り入れることで、一人では弾けなかった曲に挑戦でき、ソロ曲より譜読みやテクニックが無理なく出来て、一人で弾くより幅広い音域の多彩な和音進行や音色を味わうことで、曲のイメージが広がり、幼少期から感受性豊かになり、達成感も得ることができるのである。連弾、2台ピアノで満足感や達成感を味わうことで“ピアノがまた弾きたい” “ピアノを弾くことが楽しい” という意識を持ち、ソロ曲の難しいクラシック曲での練習のやる気にも繋がる。ソロ曲と連弾または2台ピアノ曲の両方を同時に練習することで、どちらの練習にも相乗効果が生まれ、効果的にピアノの上達に結びつくと感じる。ピアノ指導してきた34年間を振り返りながら「連弾」「2台ピアノ」の重要性を言及したい。

## II. 考察方法

1. 現在の門下生と、過去習っていたOB・OGの生徒に、アンケート調査を行った結果の考察。
2. 令和2年3月開催発表会でのプログラム内容で、実際に弾いた全員のソロ曲と連弾曲を提示し、その内5人の生徒の普段の練習とレッスンの様子、連弾曲の練習に取り掛かった後の生徒の練習とレッスンでの様子の変化、本番発表会での様子を示し考察。
3. 一人のOB生徒のピアノを習い始めてから現在までの、ピアノの成長過程と、その時々々のピアノに対する様々な気持ちの変化を考察。

※ OB・OGとは…進学や就職でレッスンに来られずピアノを辞めた生徒が、年に1度開催する発表会で、演奏を含め何らかのお手伝いをしてきている生徒

## III. 調査・考察の結果

1. 現在の門下生19人と、OB・OG生徒14人、合計33人にアンケート調査を行った

<アンケート調査> 対象 33人 の内訳 (2020年5月1日現在)

	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中2	中3	高1	高2	高3	合計
現生徒	1	1	2	2	2	1	2	2	2	1	1	1	1	19
	大学生		21歳～25歳			25歳～30歳			30歳～35歳			合計		
OB・OG	2		6			5			1			14		

1) 発表会の時、「ソロ」、「連弾」、「2台ピアノ」、「ハンドベル」をしていますが、  
どれが好きですか？ 複数選択可

	ソロ	連弾	2台ピアノ	ハンドベル	無し
現生徒	10	14	7	8	1
OB・OG	6	10	10	0	0
合計	16	24	17	8	1

2) 発表会の練習でやる気が出ると思えるのは、どの練習ですか？ 複数選択可

	ソロ	連弾・2台ピアノ	ハンドベル	無し
現生徒	15	12	7	0
OB・OG	10	7	0	0
合計	25	19	7	0

3) 発表会本番を終えて、達成感を感じるのは、どれですか？ 複数選択可

	ソロ	連弾・2台ピアノ	ハンドベル	無し
現生徒	15	15	7	0
OB・OG	10	12	0	1
合計	25	27	7	1

4) 発表会で、自分が参加したいと思う形態は？

	ソロ	連弾(2台ピアノ)のみ	ソロと連弾(2台ピアノ)両方
現生徒	1	1	17
OB・OG	1	8	5
合計	2	9	22

5) 連弾曲は皆が知っているアニメ、ジブリ、ディズニー、Jポップや、自分が弾きたいと思う曲を選曲していますが、どう思いますか？ 今後どんな曲が弾きたいですか？

	良い	好きでない	弾きたい曲
現生徒	19	0	好きなキャラクターの歌・ドラえもん・鬼滅の刃
OB・OG	14	0	アニメの曲・マリーゴールド・聞いた事がある曲
<b>合計</b>	<b>33</b>	<b>0</b>	ディズニー系・ジブリ系・コナンの曲・久石譲の曲 くるみ割り人形・クラシック系

6) ソロ曲は、クラシック曲、または名曲を選んでいますが、どう思いますか？  
今後どんな曲を弾きたいですか？

	良い	好きでない	弾きたい曲
現生徒	17	2	紅蓮花・聞いた事がある曲・愛をこめて花束を
OB・OG	13	1	メイプルソープラブ・戦場のメリークリスマス
<b>合計</b>	<b>30</b>	<b>3</b>	ショパンの曲・愛の夢・J ポップ・かっこ良い曲 タンゴ系

7) 今後、ピアノを弾くことが楽しくなるには、どの様なことをすればいいと思いますか？

【自分（生徒本人）の意見】

- ・好きな曲や知っている曲、自分の弾きたい曲を弾く。
- ・色々な曲が弾けるよう練習を頑張る。
- ・連弾が楽しいので、弾く機会が増えれば良いと思う。
- ・わからない箇所は家の人に聞いて練習しているが、いつか自分の力で完成させたい。
- ・自分の今のレベルより少し上の曲をする。
- ・1曲だけでなく、2，3曲を同時に練習する（1曲だけだと飽きる）
- ・小さい頃は何も考えず弾いていたが、色々な曲が弾けるようになったら自然に楽しいと思えるようになった。
- ・弾きたい曲が弾けた時、楽しくなる。
- ・作曲家や、その曲について調べる。
- ・達成感を感じそうな曲を弾く。
- ・譜読みが嫌いだが、続けていたら必ず良いことが自分に返ってくる経験をした。
- ・普段の教材と別に、J ポップや映画音楽などを取り入れ平行して練習する。
- ・完成した曲を、練習に飽きた時に弾くと気分転換になり、練習の意欲が出てくる。
- ・人前に出て弾くことが好きなので、発表会やコンクール等があると、やる気が出る。
- ・普段のレッスンに連弾を取り入れる。

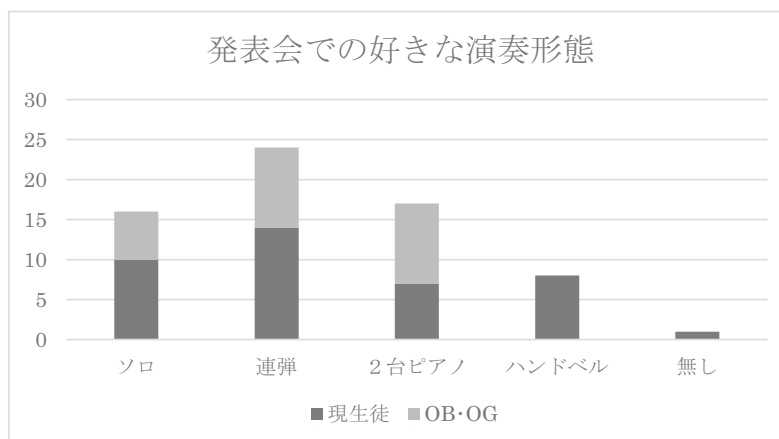
【保護者の意見】

- ・連弾やハンドベルは、同年代との切磋琢磨という意味で刺激になっていると感じる。
- ・有名な曲や好きな曲、知っている曲は合格した後も家で何度も弾いている。
- ・褒められると楽しそうに頑張ろうと練習する。

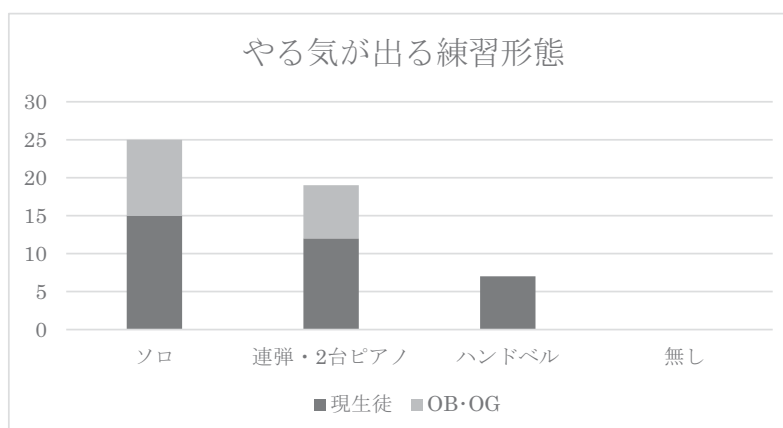
- ・発表会やコンクールという場は、結果に関わらず意欲がみられる。
- ・2台ピアノは離れた相手と息づかいを感じながら弾かないといけないので、良い経験になっている。
- ・ピアノは本当に心を癒してくれる。上手下手でなく心に響く音楽を感じると楽しくなると思う。
- ・マンツーマンでなく、生徒同士お互いの意見交換しアクティブラーニング的なレッスンをやる。
- ・先生が名曲を弾く姿を見るとやる気になる。
- ・毎日の練習癖をつける。

<アンケート結果から見える連弾と2台ピアノの効果>

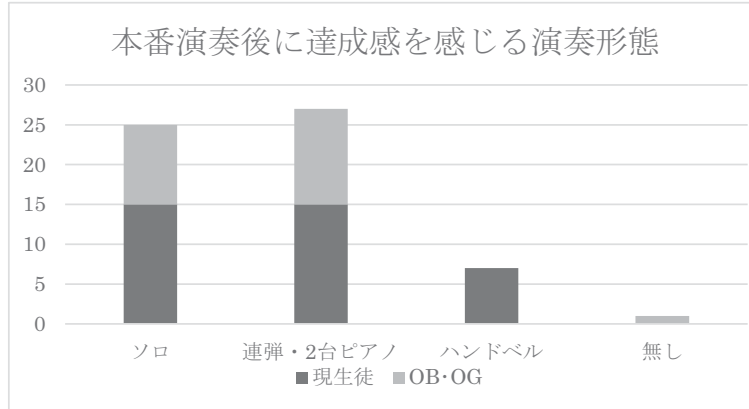
- 1) 好きな演奏形態は ①連弾・2台ピアノ(62%) ②ソロ(24%) ③ハンドベル(12%)



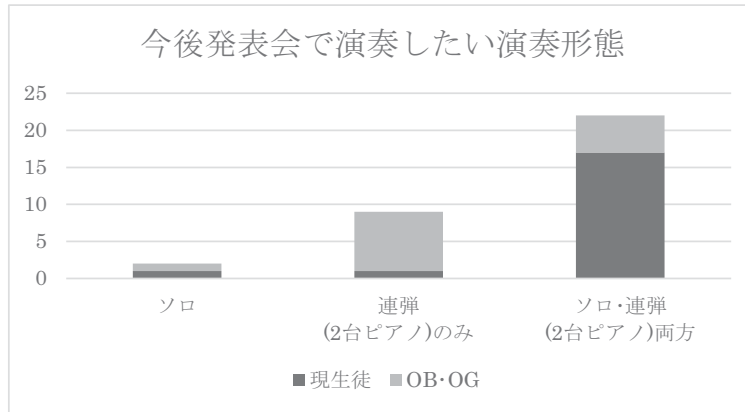
- 2) やる気が出る練習は ①ソロ(49%) ②連弾・2台ピアノ(37%) ③ハンドベル(14%)



3) 本番を終えての達成感 ①連弾・2台ピアノ(45%) ②ソロ(42%) ③ハンドベル(11%)

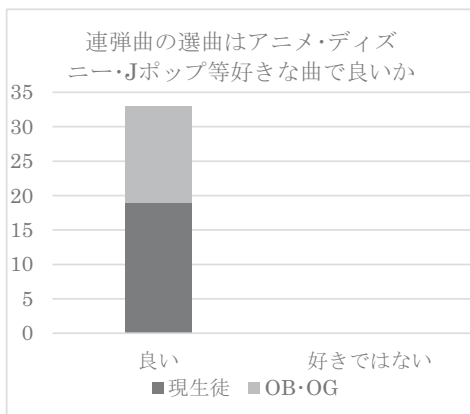


4) 発表会で参加したい形態 ①ソロと連弾・両方(67%)②連弾のみ(27%)③ソロのみ(6%)

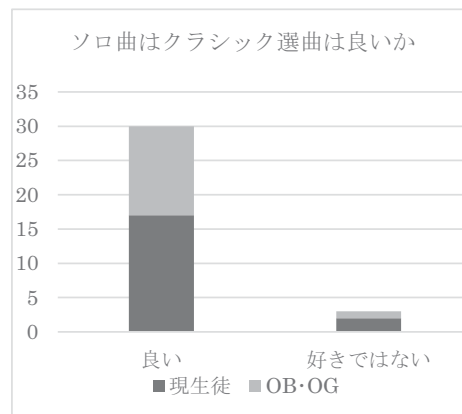


5) 連弾・2台ピアノ曲はアニメ・J ポップ等の曲 6) ソロ曲はクラシック曲が良い

①良い(100%) ②好きではない(0%)



①良い(91%) ②好きではない(9%)



### <アンケート調査による考察結果>

上記の結果から、現役生徒、OB・OG 共に「発表会での好きな形態」は、連弾・2台ピアノが多く、「家での練習でやる気が出る」のはソロ。「発表会で達成感を感じる」のは、ソロ、連弾・2台ピアノ、ほぼ同人数が達成感を感じ、「今後参加したい形態」は、ソロと連弾・2台ピアノの両方。であることから、発表会で連弾・2台ピアノのステージがあることで、ソロでの練習意欲が同時に沸き、全てのステージに達成感を感じると推察する。

また、ソロは「クラシック曲が良い」、連弾・2台ピアノの曲は全員が「皆が知っている曲や、弾きたい曲が良い」と回答している。それは、ソロで難易度の高いクラシック曲を取り組むが、譜読みやテクニックの練習に時間がかかり、暗譜で音楽的に弾けるまでには、地道で多くの練習時間を費やし苦戦する。そこで同時に、連弾や2台ピアノの曲で、知っている曲、弾きたい曲のジブリやディズニー、アニメや J ポップの曲を取り入れることで、譜読みやテクニックが容易にでき、暗譜の心配がなく、それでいて複数で合わせた時の音の重厚さや広がり、ソロでは味わえない楽しさ、高揚感を感じるようであり、その高揚感や満足感がソロへのやる気に繋がっていると推察できる。

また、今後ピアノを弾くことが楽しくなるには、どのような取り組みをしたら良いか？の質問回答に、生徒は「好きな曲や知っている曲、自分の弾きたい曲を弾く」「達成感を感じそうな曲を弾く」という回答が多かった。保護者の意見は「連弾等で他の人と一緒に演奏することで、間違えられない…という緊張感で練習する」「好きな曲を弾いている時は楽しそうに練習する」「発表会やコンクール等、人前で演奏する時はやる気を出す」等の回答があり、ソロでピアノの基本であるクラシック曲を演奏し、連弾・2台ピアノで好きな曲を同時に練習し発表することは、ピアノが嫌いにならず、好きでいられる大きな対策であろうと考える。

2. 令和2年3月開催発表会でのプログラムで、実際に弾いたソロ曲と連弾曲を提示し、その内、5人の生徒の普段の練習とレッスンの様子、連弾曲の練習に取り掛かった後の生徒の練習とレッスンの様子での変化、発表会本番での様子、を示し考察

### <今回開催の発表会でのプログラム、実際に弾いたソロ曲と連弾曲>

生徒学年性別	ソロ曲	連弾曲
1. 年中(女)	ゆかいなまきば (アメリカ民謡)	ちゅうりっぷ
2. 年中(男)	ドナルドおじさん (アメリカ民謡)	さんぽ (となりのトトロ)
3. 年長(女)	ピアノのおけいこ (バイエル)	天国と地獄より「カンカン」
4. 小1(男)	つきのひかり (ドイツ民謡)	アンパンマンのマーチ
5. 小2(女)	チャイナタウン (バステイン)	ミッキーマウスのマーチ
6. 小2(女)	人形の夢と目覚め (オースティン)	となりのトトロ
7. 小3(女)	ちょうちょう (ドイツ民謡)	南の島のハメハメハ大王



8. 小3(女)	かわいい音楽家 (ドイツ民謡)	チムチムチェリー
9. 小4(女)	おもいで (バイリー)	パプリカ
10. 小5(女)	ドイツ舞曲 (モーツァルト)	手のひらを太陽に
11. 小5(男)	かっこう鳥 (ホップ)	エンターテナー
12. 小6(女)	モーツァルトの曲 (トンプソン)	ビリーブ
13. 小6(女)	貴婦人の乗馬 (ブルグミュラー)	いつも何度でも
14. 中2(女)	アルプスの夕映え (エステン)	チムチムチェリー
15. 中2(女)	チャルダッシュ・ラブソング (シャー)	星に願いを
16. 中3(女)	のぼら (ランゲ)	いつも何度でも
17. 高1(男)	ワルツ4番 (ショパン)	ルパン三世・マスカレード
18. 高2(女)	練習曲4番 (ショパン)	ルパン三世
19. 高3(女)	愛の夢 (リスト)	海の声・マスカレード
20. 大1(女)	ワルツ7番 (ショパン)	海の声
21. 成人(男)	ソナタ14番 (ベートーヴェン)	アンパンマンのマーチ・エンターテナー
22. 成人(女)	あなたが輝くとき (西村由紀江)	なし
23. 成人(女)	なし	アイネクライネナハトムジーク

1) 3番一年長(女) & 母親…ソロ曲「ピアノのおけいこ」「こどものマーチ」 バイエル作曲  
連弾曲「天国と地獄より カンカン」 ジャック・オッフエン・バック作曲

4歳になったばかりでピアノを始めまだ半年。指も小さく力もないのでピアノを弾くというよりはレッスン内で歌い、リズム打ちや音あてゲーム、音符を覚える為にワークブックを使い色鉛筆で音符に色塗りし楽しく覚えさせ、ピアノを弾く時間は少なく、まずはピアノに向かうまでの予備知識を付けることを優先にレッスンしている。

ピアノ曲を実際に弾く曲は、右手ド・レ・ミ、左手ド・シ・ラまでの曲。この段階で初めての発表会曲に入り、ソロ曲は“ピアノを弾く”という負担を少しでも軽減出来るように今現在使用している教本から現時点で練習している曲を選択。少しずつだが2曲弾く事に慣れてきた段階で、連弾曲は覚えた音以外の新しい音が多く、オクターブ上に飛ぶ音や、ファ#も出てくる高度な曲を取って選曲。最初は四苦八苦していたが、少し弾けるようになり second パートの伴奏を一緒に弾いてあげると、最初は慣れない音やぶつかり合う手等に翻弄されていたが、慣れてきて自分に余裕が出来てからは、ソロ曲より楽しそうに目を輝かせ弾いていた。また本番は彼女の母親と一緒に弾けるという喜び、家族にその姿を見てもらえる喜び。多くの追い風に、喜びや期待があることで、新しい音や難しいテクニックも練習する意欲に繋がったと思われた。

現在は、短時間だが自宅での練習をして音符も沢山覚え、弾ける喜びを感じている様子で、毎回のレッスンで合格をもらえることを楽しみに頑張っている。

2) 9 番一小 4 (女)&指導者…ソロ曲「おもいで」 ベイリー作曲「ス°ニッシュダ°ンサー」 バスティン作曲  
連弾曲「パプリカ」 米津玄師作曲

ピアノを始めて4年。お話し好きでレッスンに来ても、まずは学校や家での出来事を延々と話してくれる。練習は毎日とはいかず念入りな練習はできていない。レッスン内で一緒に譜読みをし、練習に付き合いながら1曲を少しずつ仕上げるペースで進んでいる。しかし、今回の連弾曲「パプリカ」は、本人が“弾きたい”との強い希望で早速自ら保護者と一緒に楽譜を選び購入、自主的に譜読みや練習に取りかかり、臨時記号や複雑なリズムの箇所が沢山あるにも関わらず、ゆっくりではあるが一週間で譜読みを最後まで終わらせて来た。同時にソロ曲の譜読みの練習をして来るようになり、今までになくどちらの譜読みも早く終わった為、ソロ曲をもう1曲追加した程、ピアノの練習に意欲が見えた。

「連弾曲」で譜読みや技術的な負担が軽く、また自分の好きな曲、弾きたい曲を選択することで練習意欲が沸き、相乗効果によってソロ曲の譜読みや技術的に難しい曲にもチャレンジできる、という効果を目の当たりにした。

3) 11 番一小 5 (男)&21 番成人(男)…ソロ曲「かっこう鳥」 ホップ作曲  
連弾曲「エンターテナー」 ジョプリン作曲

従兄がピアノ弾いている姿に憧れピアノを始めて3年。ピアノの他に少年野球、バスケットボール等スポーツの習い事が多く、ピアノを始めたものの、一週間の殆どの日が習い事や試合等で、練習は殆どできない状況。ピアノに向かう時間が少ないと必然的にピアノ教本は進まないし、やっと譜読みが出来ても速い曲に指がついていかず、長い時間かけて練習したにも関わらず満足感を得られないまま曲を終えることになり、ピアノを辞めたがる時期もあった。

しかし従兄が発表会で名曲をカッコよく弾く姿を見ると未練があり、そんな時期に1回目の発表会で、連弾曲「トトの歌」を、その従兄とさせると俄然やる気になった。その後も2回目「彼こそが海賊」、3回目「エンターテナー」は同教室の先輩の男子生徒に相手を組んでもらい、どれも自分が好きで弾きたい曲、勇ましくカッコイイ曲を選び、また同じ男の子と組むことで自分の意識を高め、相手が弾いてくれる音が本物の映画音楽のような伴奏に、自分が主人公になったかの如く、本番ステージで堂々と弾いていた。

かなりの満足感、達成感で発表会を終え、聴きに来ていた方々に素晴らしかった！と多くのお褒めの言葉を頂き、満面の笑顔で帰っていく様子が印象的であった。今でも練習時間が取れないことが多く、練習嫌いなのは変わらないが、彼のピアノを続けるモチベーションは、発表会で連弾や2台ピアノをカッコよく弾き、家族や知り合いの方々に褒められることであろうと推察する。発表会、連弾、2台ピアノという機会がなければ、この生徒は早くピアノを辞めていただろう。現在は、憧れの従兄が以前弾いていた曲、ブルグミュラー作曲「優美」の練習を始めており、その曲で自らコンクールを受けたいと言い出し、挑戦することが決まり練習に励んでいる。

4) 20 番一大学 1 (女)&高 3 生徒(毎回コンビ)…ソロ曲「ワルツ 7 番」 ショパン作曲

連弾曲「海の声」(桐谷健太) 島袋優作曲

殆どの生徒は小学校に上がる前後でピアノを習い始めるが、彼女は小学校 4 年からという、若干遅いスタートである。しかし持ち前の真面目さや、競争心があったせいで、練習を良くし教材もどんどん進み、早くから習っていた同学年生徒をいつの間にか追い越し、1 年後にはコンクールに出場し毎年予選通過、本選でも数回賞を頂く頑張りであった。

しかし今回大学受験で勉強に専念の為、高校 3 年の 1 年間はピアノを辞めていた。11 月頃第一希望である大学に推薦入学が決まった報告を受け、それなら 3 月の発表会は今から練習すれば間に合うだろうと、出演の打診をしたところ、「ブランクがあるので連弾だけ出ます」との返事。連弾だけでも嬉しい返事で、早速いつも連弾を組んでいた生徒と一緒に選曲。練習から合わせまで順調に進んでいたある日、「ソロ曲もしてみない？」と聞いかけると、最初は不安そうだったが、ショパンの曲を紹介すると、一気に目が輝きやる気が湧いてきた様子で早速練習に取り掛かり、ブランクなど全く無かったかのように、発表会ではソロ曲と連弾曲を、見事に弾き終えた。

連弾がきっかけで再開したピアノが、ソロ曲も弾く意欲につながった。おそらく逆の順だったら実現出来ていなかったのではないかと推察する。連弾からの相乗効果といえるであろう。

5) 23 番一成人 29 歳(女)&同級生成人 OG… ソロ曲なし

連弾曲「アイネクライネナハトムジーク」 モーツァルト作曲

小学校 1 年からピアノを始め、高校 3 年まで約 12 年続け、大学入学の為にピアノ教室を辞める。中学、高校ではピアノとの両立で部活動のバレー部でも活躍し、成績も良かったようだ。元来努力家でありピアノの練習は短い時間でも毎日できていた様子。数回コンクールにも出場し、発表会では後輩が憧れる演奏をしてくれていた。

大学卒業後は小学校教員として多忙な毎日を送っているが、年に一度の発表会では練習が念入りに出来ないという理由で、ソロでの出演は見送っているものの、連弾や 2 台ピアノ演奏にはほぼ毎年出演している。

卒業後から今日までの 6 年間には「動物の謝肉祭…終曲」 サンサーンス作曲、「威風堂々」 エルガー作曲、「展示会の絵よりキエフの大門」 ムソルグスキー作曲、「ピアノ協奏曲 第 2 番 第 1 楽章」 ラフマニノフ作曲、「スラブ舞曲 op.46-1」 ドボルジャーク作曲、等の曲を演奏。

ピアノ教室を辞め毎週のレッスンに来られなくなっても繋がりを絶たず、教室の OG として年に一度の発表会では、「連弾」「2 台ピアノ」で同期の生徒と再会し、共演することで、後輩である現在の門下生達に「自分もソロ曲が弾けなくても連弾や 2 台ピアノで発表会の舞台に立てる！」という選択肢の見本を提供してくれている。現在も彼女達のような OB・OG の存在が、現役生徒たちへ「ピアノを生涯楽しんで！」というメッセージを伝えてくれている様子を、大変嬉しく頼もしく思う。

3. 生徒 A のピアノを習い始めから今現在までの、発表会でのソロ曲と連弾曲を表示し、成長していく過程の中での結果や、ピアノに対する様々な気持ちの変化を考察

<生徒 A…6歳からピアノを始めた男子の現在までのピアノ歴> (2020年9月30日現在)

年齢 (学年)	ソロ曲目	連弾・2台ピアノ曲目	生徒 A のピアノに対する変化
6歳 (年長)	ぶんぶんぶん(ボヘミア民謡) ダンプカーの行列 (ハステイン)	ハム太郎ととこうた 連弾…指導者	初めての発表会 嬉しさと緊張感と両方の様子
7歳 (小1)	カンツォネッタ (ニーフェ) スパニッシュダンサー(ハステイン)	貴婦人の乗馬 (ブルグミュラー) 2台4手…兄	練習はなるべく毎日し、初めてソロ演奏でのコンクールを受ける
8歳 (小2)	人形の夢と目覚め (オースティン)	ルパン三世のテーマ (大野雄二) 連弾…兄	皆からソロも連弾も「カッコよく弾けた」と褒められ嬉しかった。特にルパンは大好評で意欲増す
9歳 (小3)	かくれんぼ (大中 恩)	バロン「猫の恩返し」 (野見祐二) 2台4手…兄	連弾でもコンクーを受け予選通過し本選で奨励賞を頂く。兄との息合ったペアが定着した
10歳 (小4)	小犬のワルツ (ショパン)	宇宙戦艦ヤマト (宮川 泰) 連弾…兄	ソロでのコンクールで全国大会出場。ソロも連弾も楽しさを感じ相乗効果を感じる
11歳 (小5)	3つのエコセーズ (ベートーヴェン)	鳥の人「風の谷のナナシ」 (久石 譲) 2台4手…兄	中1の先輩と連弾でコンクールを受け全国大会出場。やる気が一段と出た年で自主的に練習
12歳 (小6)	即興曲1番 (ショパン)	ドラマ名曲メドレー ~華麗なる一族~他 連弾…兄	ソロでのコンクールで全国大会出場。半面コンクールとは違う発表会での連弾に楽しさを感じる
13歳 (中1)	練習曲1番 (ショパン)	ピアノ協奏曲「戴冠式」 (モーツァルト) 2台4手…兄	中学で吹奏楽部に入りピアノ練習の時間が少なくなり、レッスンでの練習で曲を仕上げるペース
14歳 (中2)	ワルツ2番 (ショパン)	Asience~fast piano (坂本龍一) 連弾…指導者	兄と連弾でコンクールを受け全国大会出場。中学で練習時間が減ったが基礎がある強みの結果
15歳 (中3)	幻想即興曲 (ショパン)	展覧会の絵「ブロード」 (ムソルグスキー) 2台8手…兄2人・指導者	受験で練習時間ない中、初めて兄弟3人と指導者で2台ピアノ8手をし、楽しく観客に喜ばれた。
16歳 (高1)	ワルツ18番 (ショパン)	ラデッキーマーチ (ヨハンシュトラウス) 連弾…小5生徒	高校でバレー部に入り更にピアノ練習の時間が極端に少なくなった。小さな子との連弾が楽しい
17歳 (高2)	ソナタ21番 (ベートーヴェン)	チルドレンズ・コンチェルティーノ (三枝成章) 2台4手…中1生徒	後輩と連弾をする事で自分がしっかり弾けなければと、ソロ・連弾ともに練習の自覚を持った。
18歳 (高3)	ポーランド シレジアフィルハーモニー管弦楽団をバックに、グリーグ作曲「ピアノコンチェルトイ短調 Op.16 第1楽章」を、黒崎ひびしんホールで演奏。緊張の中オーケストラの迫力と湧き出る音楽に自分のピアノが重なり、とても気持ちよかった。コンチェルトを体験できた事でピアノの醍醐味を味わい、自信とその後のピアノに於ける向上心へと繋がった		
19歳 (社会人)	なし	アイアイ (宇野誠一郎) 彼こそが海賊 (パレツ) 2台4手…年中・小3生徒	高校卒業後、公務員となり発表会は連弾で小さい子の相手専門になり、憧れの「お兄ちゃん」的存在になる。OBデビューした
20歳 (社会人)	ソナタ14番「月光」 (ベートーヴェン)	アンパンマンのマーチ エンターテナー(ジョブリ) 連弾…年長・小4生徒	仕事に少し余裕できソロ曲と小さい子達の連弾相手も出来た。OBとして今後も現役生徒達の見本になる存在となる

### <生徒 A が「ピアノ」との関りで感じた達成感と、得た自信>

生徒 A は兄 2 人を持つ末っ子で、彼の兄達がピアノを習っていたので、何の迷いもなく当然の如くピアノを始める。もともと器用ではなく、何事にもマイペースで、どちらかと言えば時間をかけて噛みしめながら理解し覚えていくタイプである。

習い始めは、なかなか音符を覚えられず、譜読みに時間がかかり、1 曲仕上げるのに何週間もかかるペースで、ゆっくりとした進度であった。

しかし 6 歳年長の時、初めてのステージでの発表会で、家族をはじめ大勢の方々に聴いてもらえ、沢山拍手を頂き褒められた快感を味わい、少しずつ練習の癖がつき、僅かな時間ではあるが、毎日ピアノを弾くようになり、曲がスムーズに仕上がるようになった。

2 年目で全国的なコンクールであるピティナピアノコンペティション、ソロ A1 級部門を受け見事予選通過。その後も毎年そのコンクールを受け、常に予選は通過し、本選でも賞を頂く程に成長した。発表会でも毎年ソロ曲で難しいクラシック曲を緊張気味に演奏し、連弾や 2 台ピアノでアニメやディズニー曲を 2 つ上の兄とペアを組み、楽しそうにステージで演奏披露した。どちらの演奏も聴衆者から沢山の拍手を頂き、本人も満足と達成感ある表情をしていたのを印象深く記憶している。

そんな時、小 3 でコンクールのソロ部門だけでなく、連弾部門も同時に挑戦し、ソロも連弾も予選通過、本選で優秀賞を頂く成績を修めた。明らかに「ソロと連弾、両方の予選通過を目指す」という相乗効果によって、地道な長時間の練習を可能にし、結果に出せた。

翌年小 4 で、ショパンコンクール 3、4 年生部門に挑戦し全国大会へ出場。この頃からの練習は、平日は毎日 30 分~1 時間だが、週末や祝日は午前中のうちにピアノの練習をし、終わらないと遊びには行けないというルールを自分で作り、全国大会で自分が自信をもって弾けるよう、悔いの残らないよう、自分の為に頑張っていた。憧れの東京行き、初めての飛行機やホテル、東京ディズニーランド等のご褒美があることで、緻密で厳しい練習をも乗りこえることができたようである。

翌年小 5 では、同じ門下生の中学 1 年男子とのペアで、ピティナピアノコンペティション連弾初級 B 部門で全国大会へ出場。連弾で相手の音を細部にわたり聴く力、相手と協調しながら作り上げる音楽性、二人の呼吸をぴったり合わせて生まれる微妙な“間”“ダイナミック”“テンポ”等の違いを臨機応変に本番で対応していく技術を身に付けていったよう成長した年だった。その甲斐あり、小 6 ではまたショパンコンクール 5、6 年生部門で予選 1 位金賞、全国大会へ出場。確実に実力をつけたと感じた。

翌年中学生になり、吹奏楽部に入部した為、毎日帰宅が遅く疲れ、平日のピアノの練習は殆ど出来ない状態に加え、週末や祝日もイベントの出演等でピアノの練習時間確保は今までの 10 分の 1 にも満たない状況になった。だが、これまで積み上げた基礎があるお陰で、レッスン時に譜読みをしながら少しずつ曲を仕上げていく、というスローペースながらピアノを継続できたようである。その後発表会で生徒 A は、ソロで好きな作曲家ショパンの曲を選び、2 台ピアノでは、ピアノの醍醐味を余すところなく味わえるコンチェルトの模擬

体験として、モーツァルト作曲ピアノ協奏曲「戴冠式」第1楽章を、兄とのペアで経験させてみた。この経験で兄弟ともに、2台ピアノで模擬的にコンチェルトを味わえ“ピアノの奥深さ”“ソロでは味わえないハーモニーの広がり”“自分一人では味わえない、聴こえてくる音の大きさや重量感”等、多くの事を感じ取ったようで、生徒Aが中2の時には、高校1年の兄とのペアでピティナピアノコンペティション連弾中級部門の全国大会へ出場を果たした。二人とも様々な経験をしている成果があり、二人で話し合ったり弾いてみたりと、自分たちで試行錯誤しながら曲を仕上げた。指導者として大変嬉しい光景がみられ、生徒Aの飛躍的な成長を感じた。

それ以降、高校へ入ってもバレー部に入り日ごろの練習は出来ないながらも、発表会では変わらずソロで好きな作曲家のショパンやベートーヴェンの曲を演奏し、連弾・2台ピアノでは、小さな生徒達の相手を指導者の代わりに率先して引き受けてくれるようになった。子ども達の好きな曲やアニメや映画音楽を、子ども達目線になり優しくアドバイスしながら楽しんで出演してくれ、聴衆者にもほのぼのとした温かな雰囲気を感じてもらえ、今では「自分も連弾の相手をお兄ちゃんにして欲しい」という声は何件もあり、嬉しい悲鳴をあげている。

そして高校3年の時、公務員試験勉強に集中するためピアノは一旦辞め、目標に向かおうとしている中、筆者の所属する音楽団体より依頼があり、海外オーケストラをバックに、生徒をコンチェルトに出演させてもらえる、という素晴らしい話が舞い込んできた。生徒Aには是非経験してもらいたく話を持ち掛けた。生徒Aは“コンチェルトを弾いてみたい”様子だったが、ピアノを今辞めていて試験勉強が大変な中、果たして自分にやれるのか。という不安が大きかったようである。話を持ちかけてコンチェルト本番まで約10か月あったので、幼少の頃からピアノを弾いてきた基礎を基盤に、選曲は「弾きたい曲」「好きな曲」「モチベーションが持てる曲」を選び、日々少しずつ練習すれば仕上がるのでは！と伝えると、一気に不安がやる気になり変わりコンチェルト出演を決意した。そして早速選曲、「勇ましくカッコいい曲」希望だったので、すぐさまグリーグ作曲「ピアノコンチェルトイ短調 op.16」の第1楽章が浮び27ページある曲を渡した。少しずつ譜読みし仕上げ、オーケストラ部分を指導者（筆者）が弾き、何度も繰り返して2台ピアノでオーケストラをイメージしながらの合わせ練習を重ね、3月本番を迎えた。

当日、オーケストラとのリハーサルは僅か10分のみで本番ステージに望まなくてはならず、かなりの不安と緊張で、言葉数も少なくなり落ち着かない様子で、準備していた食事もいつもの半分しか食べられない様子だった。

そして本番。周囲の心配をよそに、ステージを歩きスポットライトを浴びながらお辞儀する姿は堂々たるもので、オーケストラのティンパニーから始まり直ぐに入るピアノのタッチの迫力は、雄々しく大きく響き渡り、多くの難所や不安な箇所もクリアし、見事に弾き終え、客席からは拍手喝采が鳴り響いた。

演奏後の生徒Aの第一声は「気持ちよかった！」であった。多分今まで様々なコンクール

や発表会で感じた喜びや達成感とは比べ物にならない程、とても大きな達成感と満足感だったであろう。

その後は、地元で公務員として働き、日ごろピアノには触れていない生活だが、発表会ではOBとして、小さな生徒たちの連弾・2台ピアノの相手をしてくれ、保護者や同じ門下生を楽しませてくれる存在になっている。時折急にピアノが弾きたくなり、休日等に実家に戻り以前弾いた曲などを弾き、良いストレス発散になっているようだ。おそらく今後も、指導者が発表会を開催する度に、連弾や2台ピアノでの出演はしてくれるであろう。

生徒Aにとって、ソロと連弾とを同時に毎回の発表会やコンクールで演奏し学んだことで、どちらの上達にも相乗効果をもたらされ、連弾や2台ピアノで“二人で一緒に演奏する楽しさ”“好きな曲を弾いて楽しめる”“一人では味わえない音楽の広がりやハーモニーの豊かさ”などを経験したからこそ、二人だけではなく更に規模の大きな「何種類もの楽器が奏でるオーケストとの共演」へとつながり、幅広いハーモニーの広がりや豊かさが想像でき、ピアノ学習者として、ピアノの醍醐味を味わうことのできるコンチェルトの演奏体験にまでたどり着いたと推察できる。

今ではピアノを演奏する喜びが持て、ライフスタイルに心地よくピアノが入り込んでいくように感じられる。今後も人生を歩む上での自分を豊かにしてくれる心の癒しと、自分を奮い立たせる矜持の一つであってほしいと願っている。

#### IV. まとめ

3つの考察結果から、どの考察にも、ソロだけの練習やレッスンではなく、連弾や2台ピアノ曲をソロ曲と同時に練習し披露する事で、相乗効果をもたらさせ、生徒の練習のモチベーションが上がり、ピアノ全般の上達につながるという結果が表れた。

ピアノ学習者は、孤独に一人で黙々と難しい譜読みをし、テクニックの基礎を身に付けるために地道にハノンや音階、和音練習をし、エチュードで更に幅広いテクニックを養い、楽典や聴音も学び、様々な時代の曲を弾き、作曲家に合わせた曲作りをし、それをステージで聴衆者に魅力的な暗譜演奏するまでには、相当な練習量と精神力が必要である。

しかし連弾や2台ピアノでは、譜読みやテクニックが軽減でき、その上暗譜でなくて良いという安心感と、一人ではない心強さと、二人で作りに上げる楽しさや喜びを味わえる。それでいて尚且つ、自分の好きな曲や弾きたい曲、それがクラシック曲ではなくアニメやディズニー、映画音楽からも選曲できることで、連弾や2台ピアノの場合、演奏者も聴く側もとても楽しむ事ができる。更に「発表会」で、その楽しさや満足感、達成感を、家族や他の聴衆者に披露することで、生徒のやる気や練習する意欲に繋がり、本来のクラシックベースのソロ曲の練習も地道に励むことができる。ソロも連弾も家族や聴衆者に褒められたい、上達した演奏を皆に聴かせたい、だから頑張る！という相乗効果によって、どの生徒も発表会の度に変成長し、その満足感や達成感が冷めないうちに、コンクールに挑戦し、予選や本選で一息ついたかと思うとまた次の発表会があり…と、達成感や満足感を1回で終わらせず、や

る気のある生徒には、どんどん発表の場を設けてあげることが上達を飛躍的にするには効果的である。

また、ピアノは生涯学習であってほしいと願っている為、辞めていった生徒とは時々近況報告の連絡をし、筆者が拘っている年に1度の発表会には **OB・OG** の演奏コーナーを設けている。殆どの **OB・OG** はソロでは練習時間が取れないが、連弾か2台ピアノで可能な限り出演してくれている。小さい頃から発表会であたりまえのように、ソロと連弾の両方の出演をしていた彼らは、連弾や2台ピアノの楽しさや満足感が体に染みついているのであろう、殆どの生徒は日程が合えば出演したいと言ってくれ、嬉しく思う。その光景は、現在の小さな生徒達の憧れとなっており、大人になりピアノが習えなくなっても、発表会には連弾や2台ピアノでステージに立てる！と **OB・OG** 達を目標にしているようである。

ピアノのステージで味わう「緊張感」と同時に、練習し努力した結果生まれる「達成感」「満足感」は、早い時期から連弾や2台ピアノで「二人で作りに上げ演奏できる喜びや安心感」、「一人では味わえないハーモニーの広がりや豊かさ」を感じながら、ソロと一緒に練習し学んできたからこそ、深く味わえている。その気持ちがピアノを続ける要因であり、上達への近道であるといえる。

今後も、発表会でのソロと連弾・2台ピアノの両方のステージに拘り、生徒たちのピアノへの関心と、上達を目指し邁進していきたい。

#### 参考文献

- |        |         |                  |       |
|--------|---------|------------------|-------|
| ・中嶋恵美子 | (2016年) | 「知っておきたい幼児の特性」   | 音楽之友社 |
| ・成田 剛  | (1988年) | 「ピアノが大好きな子供に育てる」 | 音楽之友社 |
| ・大田 恵子 | (1984年) | 「子供をのばすピアノレッスン」  | 健友館   |